

本市では、2019年度から「こおりやま広域連携中枢都市圏（以下、こおりやま広域圏）」を形成し、公共施設の相互利用促進や、産業や環境分野等の共同研究、災害対応に係る相互支援体制の構築など、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するため、近隣の16市町村と一緒にさまざまな施策に取り組んでいるほか、広域圏と民間企業等との公民連携の取組みを進めています。

幅広い住民の皆さまの御意見を反映させ、より一層魅力的な広域圏を目指していくため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。
 （政策開発課）

調査概要

- 調査期間 令和5(2023)年7月19日(水)～7月28日(金) (10日間)
- モニター数 398名 (男性 172名 女性 226名)
- 回答者数 352名 (男性 157名 女性 195名)
- 回答率 88.4%

【分析】

≪回答者内訳(人)≫

	10代～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	総計
女性	8	34	63	48	35	7	0	195
男性	6	7	34	41	23	31	15	157
総計	14	41	97	89	58	38	15	352

≪広域連携への理解≫

・近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、全体の96.0%が「賛同する」と回答している。一方で、「こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）」の認知度は、63.1%であった。（問1、問2）

≪広域圏内の交流≫

・交流が深い広域圏内の市町村は、本市と隣接する市町村が上位になっている。（問5-1）
 ・交流の形として、「買い物や外食」51.6%が最も多く、次いで「観光地、公園、レジャー」47.5%となっている。（問5-2）

≪圏域の共通課題≫

・広域圏内で共通課題と感ずるものは、上位の「少子高齢化」67.3%、「まちなかの賑わいが無い」48.0%については2019年の調査から順位の変動がないが、3位が「交通の便が悪い」から「人口の減少」36.6%へと順位が変動している。（問8）

≪鉄道利用について≫

・鉄道の維持・利用促進については、全体の65.1%が「利用促進を図り、現状を維持していくのが望ましい」と回答しており、このうち64.2%が「通勤・通学の移動手段として必要」、52.8%が「高齢者等の移動手段として必要」と回答している。（問6-2、問6-3）

≪広域圏内の各市町村が求められる役割≫

・連携中枢都市である郡山市においては全体の67.9%が「圏域全体の発展のけん引」と回答し、連携市町村の役割については59.9%が「市町村の強みや特性の発揮、魅力のPR」と回答している。（問11、問12）

【考察】

・広域連携の推進については、96.0%の方が「賛同」と回答しているが、その枠組みである「こおりやま広域圏」に関する認知度は63.1%であることから、「こおりやま広域圏」について、市の広報紙、テレビの活用など効果的な方法を検討しながら周知の強化に努めていく。

・全体としては96.9%が、こおりやま広域圏の市町村と何らかの関わりをもっていると回答しており、市町村間で双方向的な交流が行われている。

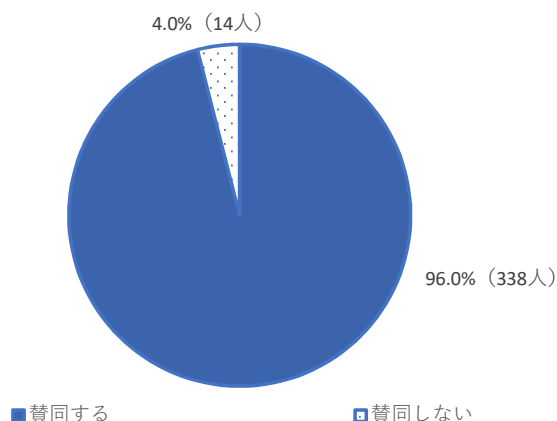
・鉄道利用については、「利用促進を図り現状を維持していくのが望ましい」とする意見が全体の約2/3を占めており、主として「通勤・通学・高齢者の移動手段として必要」という意見が多い。

・中枢都市（郡山市）の役割については「圏域全体の発展のけん引」という意見が多い。一方、連携市町村の役割については「市町村の強みや特性の発揮、魅力のPR」といった回答が多く見られ、地域の特色を生かした連携への参画が求められている。

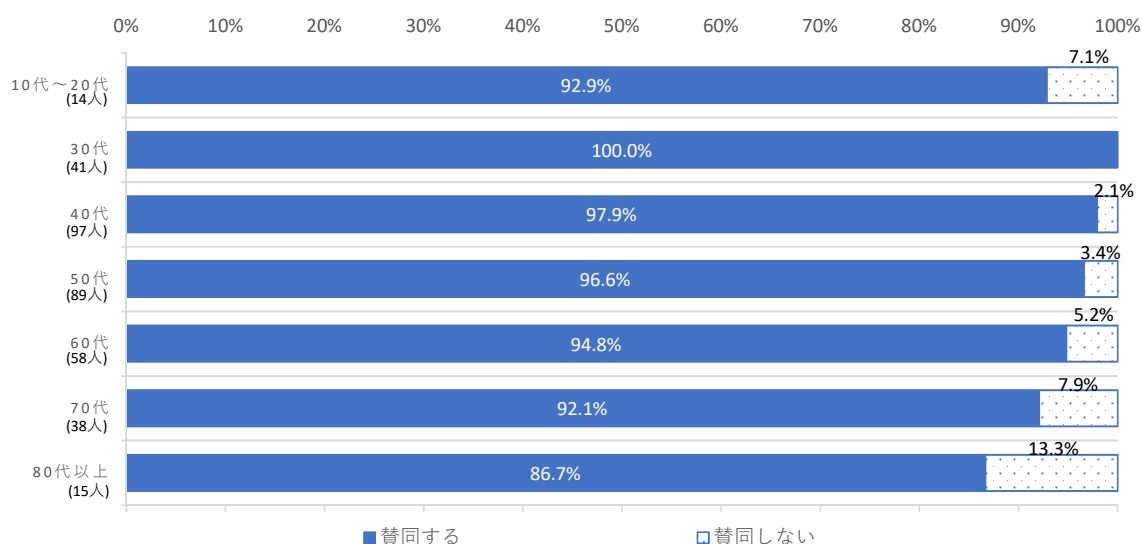
※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

問1 人口減少・少子高齢社会においても活力ある社会経済を維持するため、近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、どのように思いますか？（1つ選択）

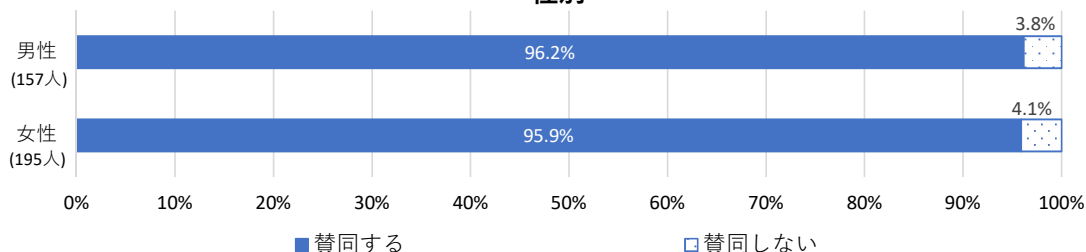
（回答者：352人）



年代別



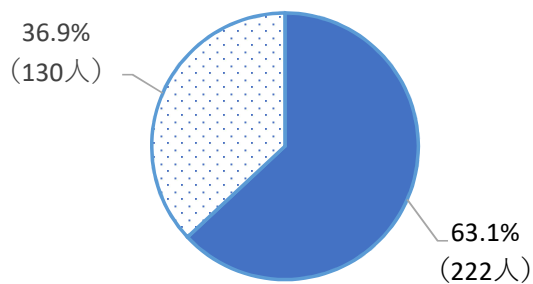
性別



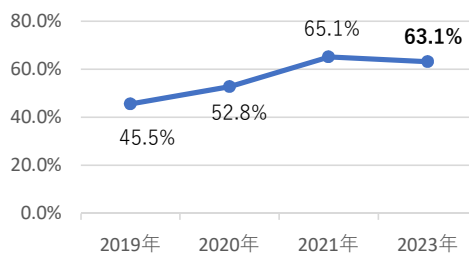
近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、全体の96.0%が賛同すると回答した。年代別に見ても、全年代において86%を超える方が賛同すると回答しており、特に30代では100%となっている。また、性別でも男女差はほとんどなく、「広域連携の推進」については、概ね理解を得られている。

問2 「こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）」について、ご存じですか？
（1つ選択）

（回答者：352人）

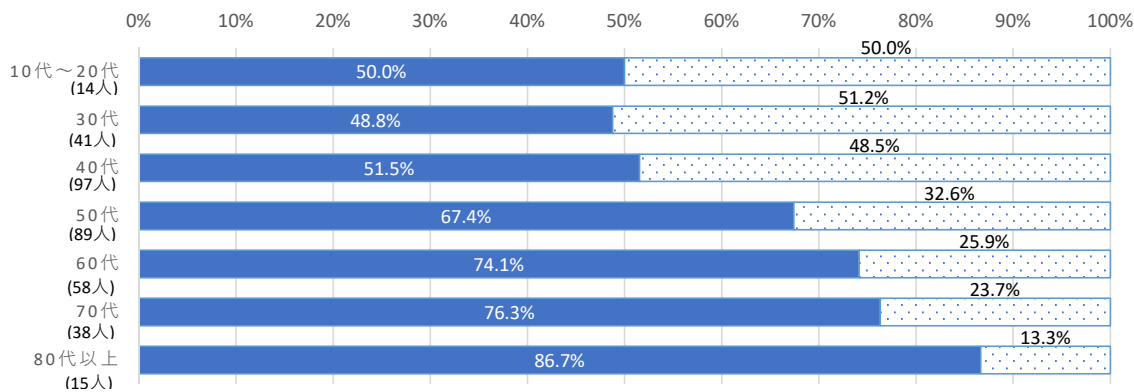


認知度の推移



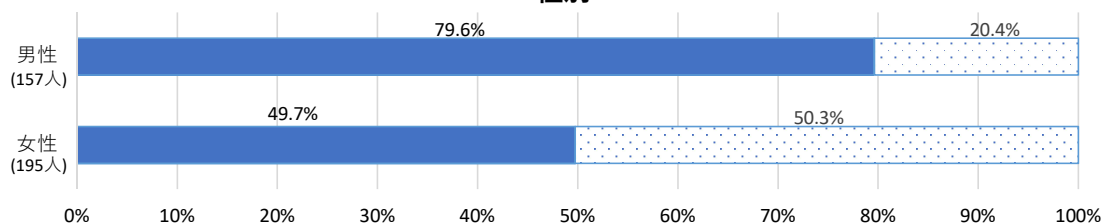
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別

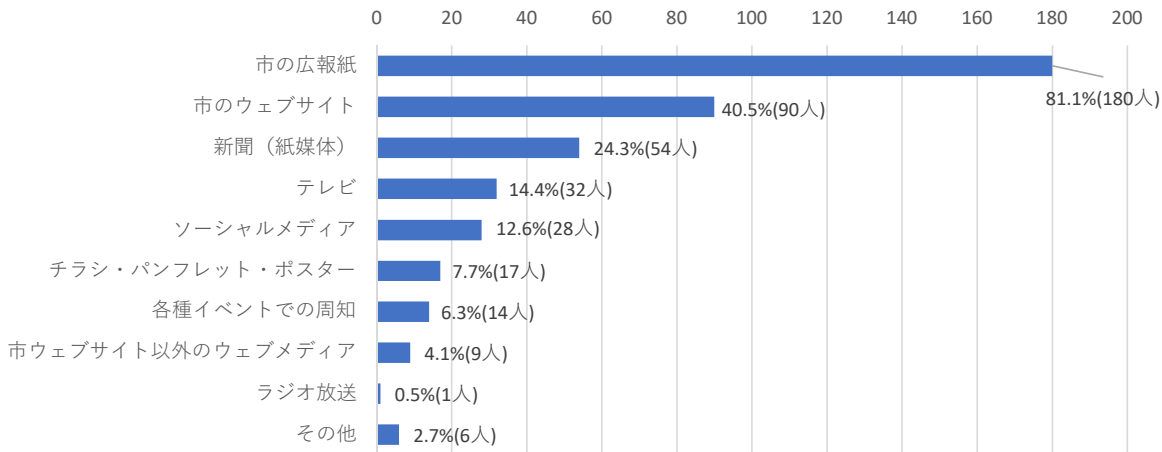


■ 知っている □ 知らない

こおりやま広域圏の認知度について、全体の63.1%が「知っている」と回答したが、2年前の前回調査と比べると、認知度（知っている）は2.0%低下している。
年代別では、80代以上の86.7%が最も高く、30代の48.8%が最も低い。
男女別では、男性の方が女性よりも29.9ポイント認知度が高かった。

問3 問2で「知っている」を選択した方にお伺いします。どのような方法で知りましたか？
(3つまで選択可)

(回答者：222人)



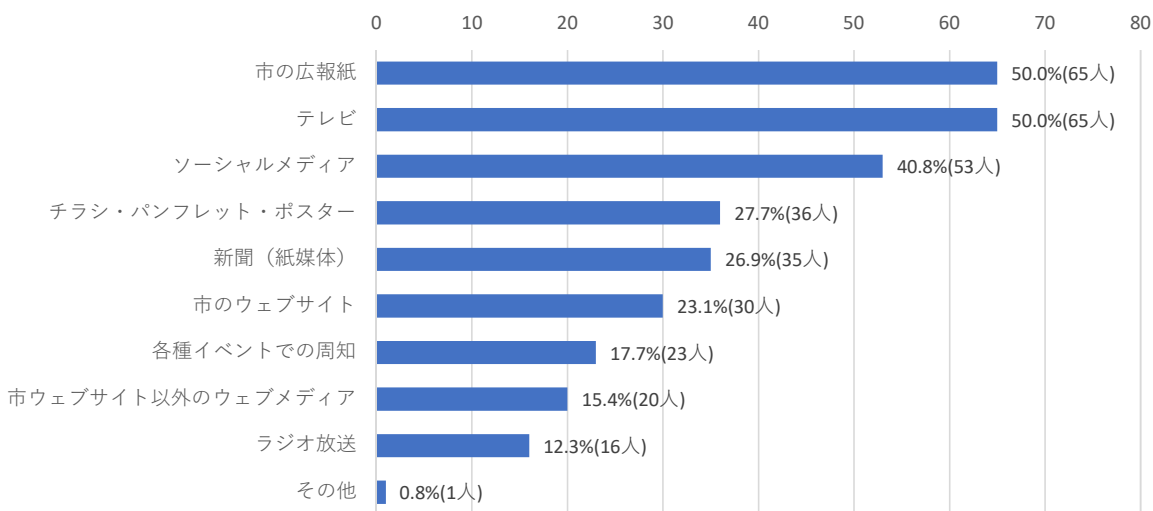
「その他」を選択した方の主な意見

- ・あさかの学園大学
- ・ネットモニター
- ・広域圏の観光についてのセミナー

こおりやま広域圏を知った媒体としては、「市の広報紙」が81.1%と最も高く、次いで「市のウェブサイト」40.5%、「新聞 (紙媒体)」24.3%となっている。
 相対的に、デジタル媒体よりも紙媒体からこおりやま広域圏の情報を得ている方が多い。

問4 問2で「知らない」を選択した方にお伺いします。周知を強化するためには、どのような方法に力を入れていくべきだと思いますか？ (3つまで選択可)

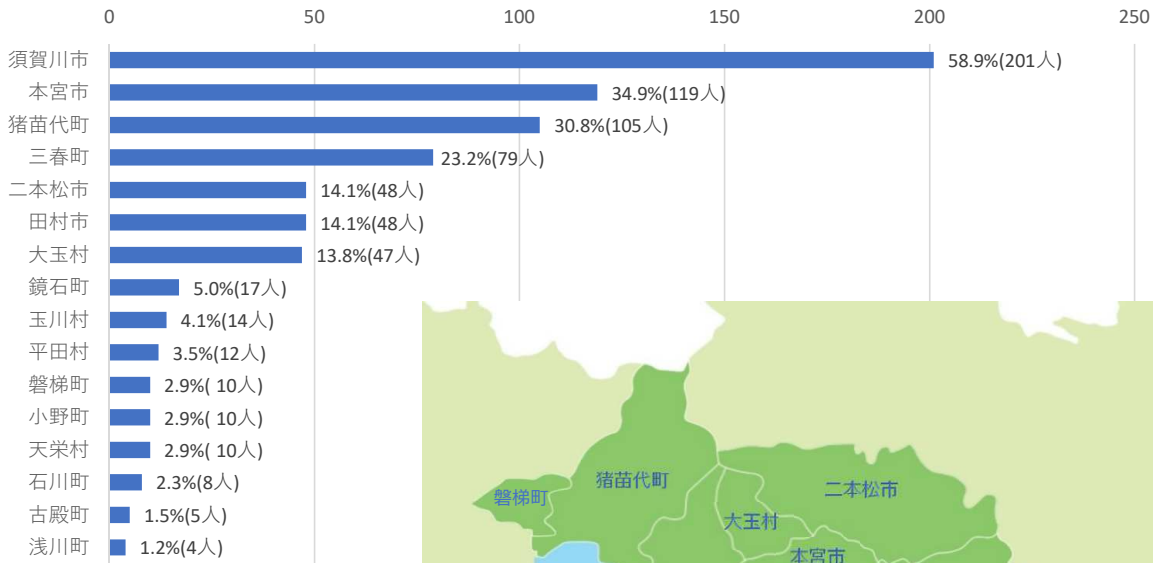
(回答者：130人)



周知を強化するための方法としては、「市の広報紙」と「テレビ」が50.0%と同率で最も高く、次いで「ソーシャルメディア」40.8%となっている。
 メディア媒体、紙媒体ともに需要が高いことがうかがえ、さらなる有効活用を検討する必要がある。

問5-1 あなたは、現在、広域圏内のどの市町村と行き来するなどの交流が深いですか？
(2つまで選択可)

(回答者：341人)

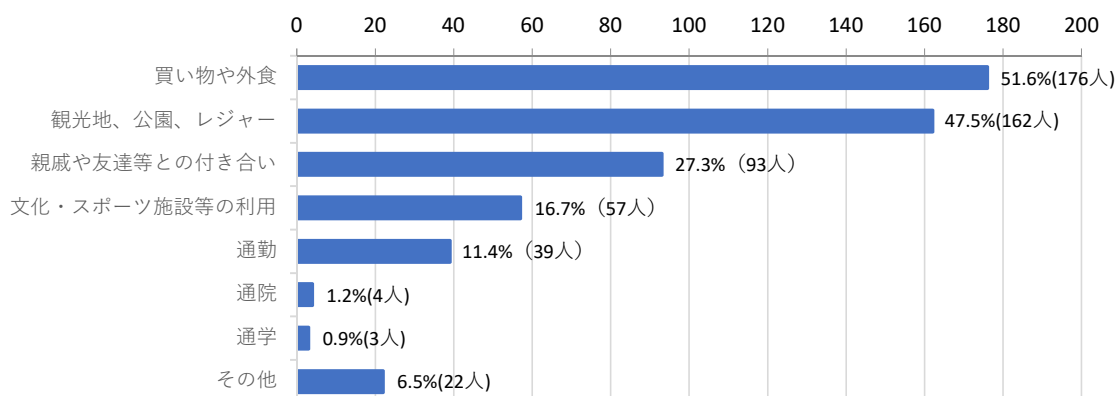


交流が深い広域圏内の市町村として、「須賀川市」が58.9%で最も多く、次いで「本宮市」34.9%、「猪苗代町」30.8%、「三春町」23.2%と本市と隣接する市町村となっている。なお、最も少ない市町村は「浅川町」で1.2%であった。

全体としては96.9%が、こおりやま広域圏の市町村と何らかの関わりをもっていると回答しており、市町村間で双方向的な交流が行われているといえる。

問5-2 問5-1で選択した市町村と、どのような交流をされていますか？
(1つの市町村につき2つまで選択可)

(回答者：341人)



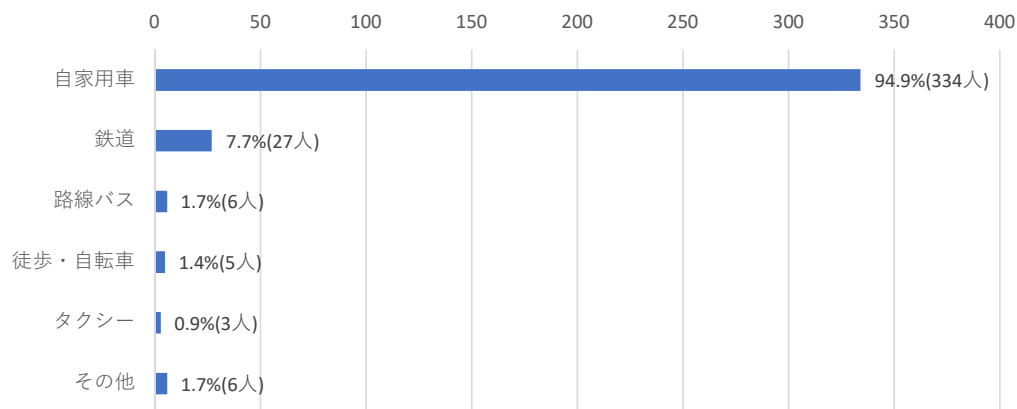
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・仕事での訪問
- ・イベントへの参加

広域圏内市町村との主な交流としては、「買い物や外食」が51.6%と最も多く、次いで「観光地、公園、レジャー」47.5%、「親戚や友達等との付き合い」27.3%の順となっている。

問6-1 広域圏内の市町村と行き来するときは、主にどのような手段を利用しますか？
(2つまで選択可)

(回答者：352人)

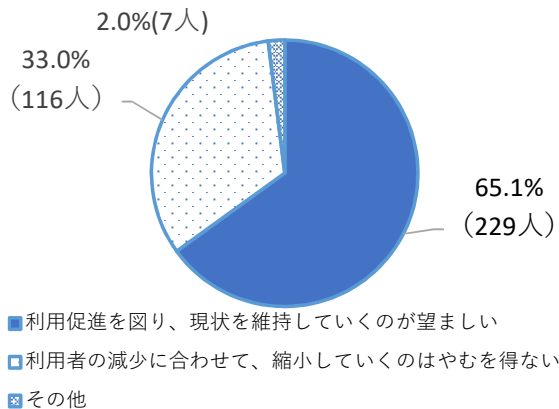


※「その他」を選択した方の主な意見

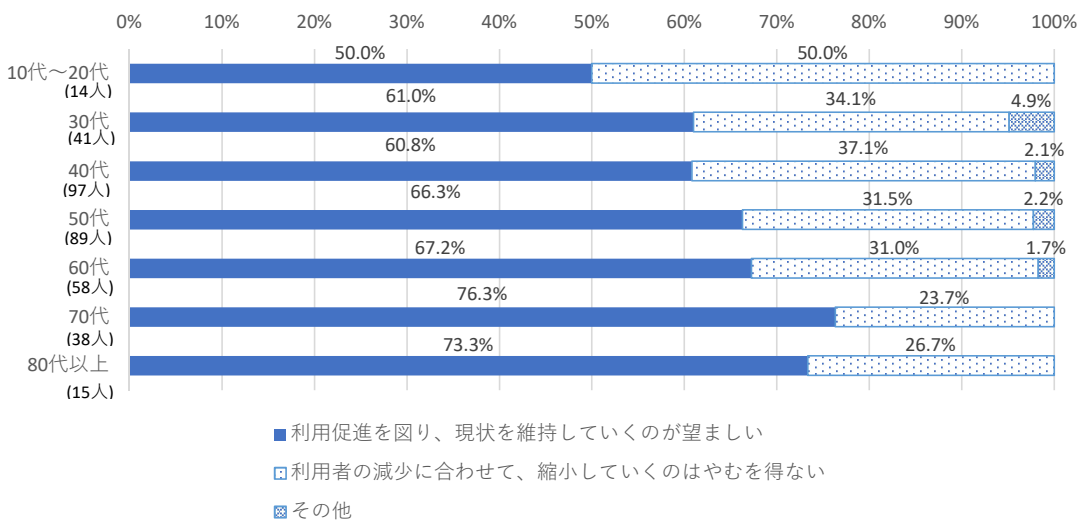
- ・会社の車（社用車）
- ・バイク

広域圏内市町村の往来は、94.9%が「自家用車」を利用しており、次いで「鉄道」7.7%となっている。

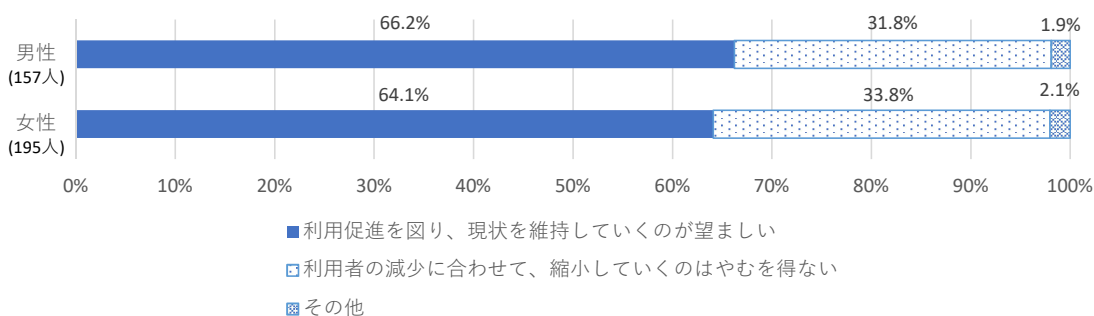
問6-2 鉄道の赤字路線の収支公表を受け、福島県内においても人口減で利用客の増加が難しい中、将来にわたりどう存続させていくか、こおりやま広域圏の市町村を含む沿線自治体や県等で検討していますが、鉄道の維持・利用促進について、どのように考えますか。(回答者：352人)



年代別



性別



※「その他」を選択した方の主な意見

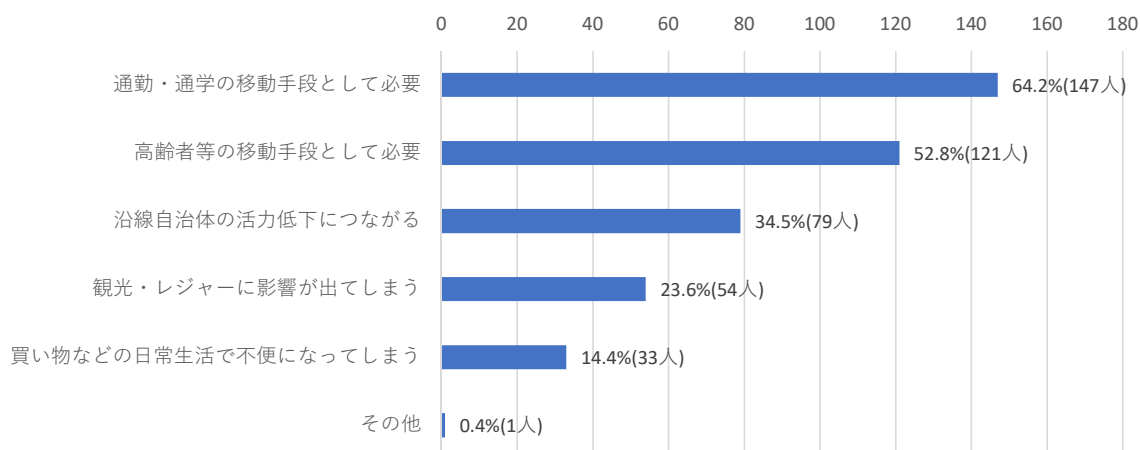
- ・各駅の近くに商業施設があれば利用価値がより一層上がると思う。
- ・観光などの施設施策を整備して、発展するようにしていく。
- ・料金を上げる。少数でも必要としている人がいるはずなので。
- ・電車の本数を増やす。

鉄道の維持・利用促進については、65.1%が「利用促進を図り、現状を維持していきのが望ましい」としており、年代が上がるにつれてその割合は高くなっていく傾向にある。

問6-3 問6-2で「利用促進を図り、現状を維持していくのが望ましい」と回答した方にお伺いします。どのような理由で維持すべきと考えますか？

(2つまで選択可)

(回答者：229人)



※「その他」を選択した方の主な意見

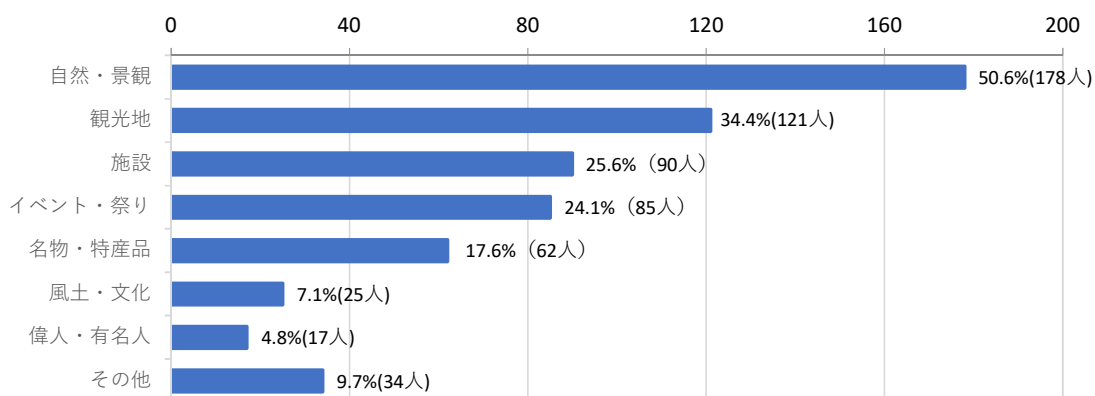
- ・二酸化炭素排出量が少ないから

「利用促進を図り、現状を維持していくのが望ましい」理由としては、「通勤・通学の移動手段として必要」が最も多く64.2%、次いで「高齢者等の移動手段として必要」が52.8%となっている。

問7-1 こおりやま広域圏で圏域外に自慢できるような特徴は何だと思えますか？

(2つまで選択可)

(回答者：352人)



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・利便性
- ・プロバスケットチームの福島ファイヤーボンズ
- ・立地が良いので住みやすい。

<参考> 2023年得票数上位トップ3の2019年～2021年調査時の順位

	2019年	2020年	2021年	2023年
自然・景観	3位	1位	1位	1位
観光地	4位	3位	2位	2位
施設	1位	2位	3位	3位

こおりやま広域圏の圏域外に自慢できる特徴としては、「自然・景観」が50.6%と最も多く、次いで「観光地」が34.4%であった。

問7-2 問7-1で選択した内容を具体的に記入してください。

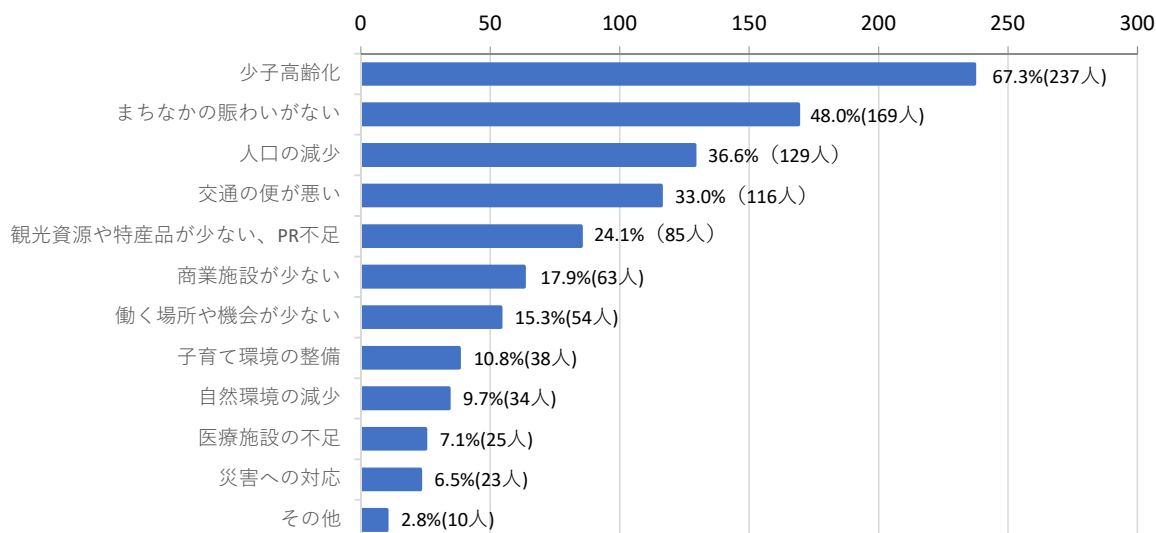
(回答者：352人)

・分類別の具体的な内容（主なもの）

■自然・景観	山（磐梯山、安達太良山 等）、猪苗代湖、布引高原、乙字ヶ滝、三春ダム、ゴールドライン等の景観、平田村の芝桜、鏡石町たんぼアート 等
■観光地	山（磐梯山、安達太良山 等）、猪苗代湖、滝桜、温泉（磐梯熱海温泉、岳温泉）、須賀川牡丹園、布引高原、スキー場、二本松菊人形 等
■施設	各商業施設、集客施設（ビッグパレット、ビッグアイ（プラネタリウム）、tette 等）、公園・子どもの遊び場（ベップキッズこおりやま、カルチャーパーク 等）、ムシテックワールド、コミュタン、鏡石町民プール（すいすい）、医療施設 等
■イベント・祭り	イベント（開成山公園やビッグパレットでのイベント 等）、地域のお祭り（うねめ祭り、釈迦堂川花火大会、松明あかし、二本松提灯祭り 等）
■名物・特産品	日本酒、米、野菜、果物、鯉料理、各地の銘菓 等
■風土・文化	安積疏水、神社仏閣 等
■偉人・有名人	偉人（野口英世、円谷英二、朝河貫一、高村智恵子）、有名人（西田敏行、GReeeeN） 等
■その他	交通の利便性、ファイヤーボンズ 等

問8 現在、こおりやま広域圏において「共通課題」と感じるのは、どのようなものですか？
（3つまで選択可）

(回答者：352人)



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・医師が少ない
- ・郊外での住宅開発や大型小売店の立地等によるまちなかの空洞化

<参考> 2023年得票数上位トップ3の2019年～2021年調査時の順位

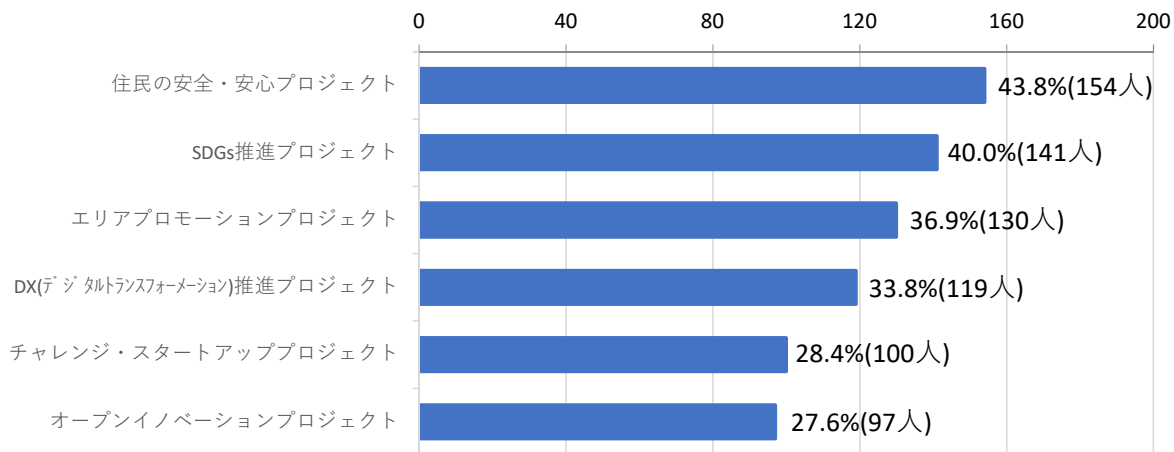
	2019年	2020年	2021年	2023年
少子高齢化	1位	1位	1位	1位
まちなかの賑わいが無い	2位	2位	2位	2位
人口の減少	4位	4位	4位	3位

こおりやま広域圏の共通課題としては、「少子高齢化」が最も多く67.3%であり、次いで「まちなかの賑わいが無い」が48.0%であった。

問9 こおりやま広域圏では、圏域の強みを生かすための6つの「重点プロジェクト」を設けていますが、このうちどのプロジェクトがより重要だと思いますか？

(3つまで選択可)

(回答者：352人)

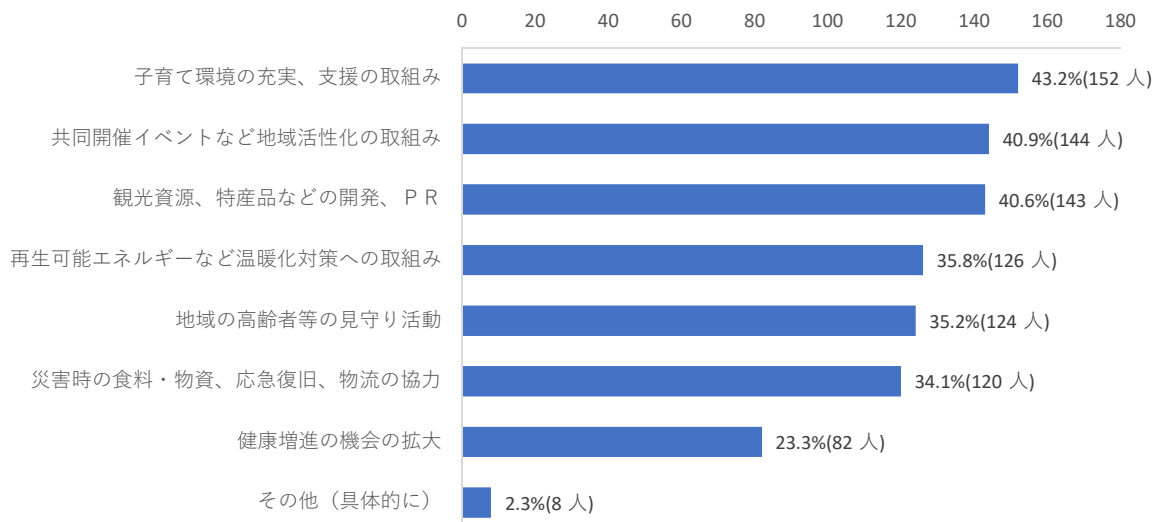


【各種プロジェクトの概要】

- 住民の安全・安心プロジェクト
⇒蓄積された情報・ノウハウを共有し、圏域全体の住民の安全・安心な生活を確保
- SDGs推進プロジェクト
⇒「持続可能な開発目標」SDGsについて圏域全体で取組を推進
- エリアプロモーションプロジェクト
⇒様々なチャンネルを活用し、こおりやま広域圏の魅力を効果的・効率的に発信
- DX(デジタルトランスフォーメーション)推進プロジェクト
⇒デジタルをフル活用、新たな社会・経済システムの創出を促進
- チャレンジ・スタートアッププロジェクト
⇒様々なチャレンジ・スタートアップを支援、圏域のフロンティア開拓を推進
- オープンイノベーションプロジェクト
⇒多様かつ高度な産業研究機能が集積されている環境を生かし、様々な研究連携を促進

最も重要と回答したのは「住民の安全・安心プロジェクト」で43.8%、次いで「SDGs推進プロジェクト」で40.0%であった。各プロジェクトの回答数にそれほど大きな差はなく、どのプロジェクトもまんべんなく推進していく必要がある。

問10 こおりやま広域圏では、行政と民間企業や研究機関等とがどのような分野で連携を強化すると良いと思いますか？（3つまで選択可） （回答者：352人）

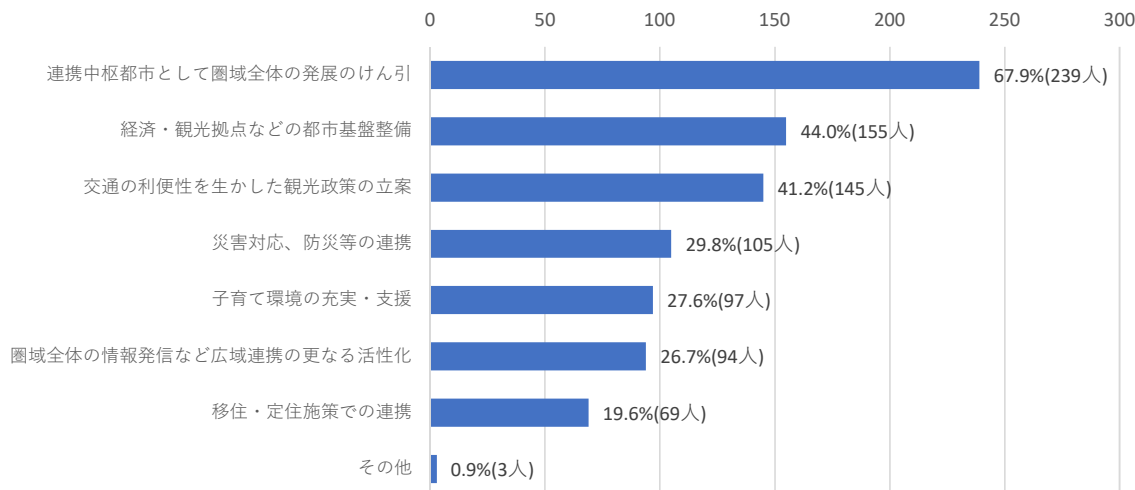


※「その他」を選択した方の主な意見

- ・医療分野の研究と開発に携わる人材の育成
- ・ビジネスにおける新規事業の創出
- ・地域の安心安全、子育て支援等、老若男女が穏やかに過ごせる郡山市を目指してほしい

民間企業や研究機関との連携を強化すべき分野として、「子育て環境の充実、支援の取組み」と回答した方が最も多く43.2%であった。

問11 「連携中枢都市」（こおりやま広域圏の中心となる都市）である郡山市が特に求められる役割はどのようなものだと思いますか？（3つまで選択可） （回答者：352人）

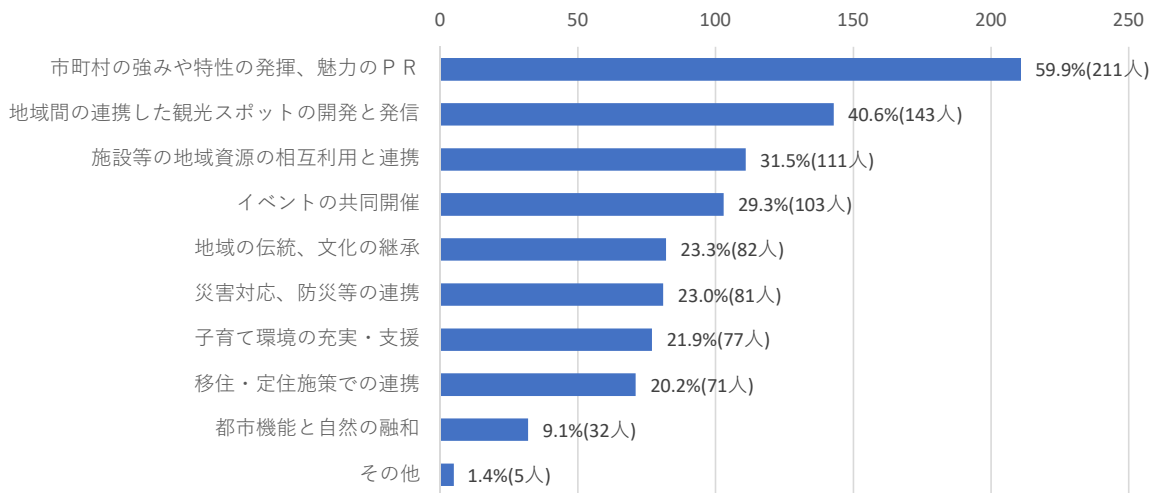


※「その他」を選択した方の主な意見

- ・高齢者が安心して暮らせる環境の充実と支援

「連携中枢都市」である郡山市が特に求められる役割として、「圏域全体の発展のけん引」と回答した方が最も多く67.9%であった。

問12 郡山市以外の連携の各市町村に求められる役割はどのようなものだと思いますか？
(3つまで選択可) (回答者：352人)



郡山市以外の連携市町村に求められる役割について、「市町村の強みや特性の発揮、魅力のPR」が59.9%と最も多かった。

※「その他」を選択した方の主な意見

- ・拠点整備とそれをつなぐ交通網の整備
- ・財政面での連携や全体最適化

問13 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

（主な意見）

■ 連携のあり方について
こおりやま広域圏で協力し、交通面や共同開催のイベントを今後検討して欲しい。（50代・男性）
各市町村で施設利用時に住民への割引をみかけますが、広域圏で割引が実施されると一体感もありよいと思う。（40代・女性）
こおりやま広域圏が、もっと一つになっていることが実感出来たら、イベントや施設利用などもっと参加したい。（60代・女性）
■ 広域圏の認識と情報発信について
田村市のあぶくま洞や郡山市自慢の施設など、域外に対しひとまとめに魅力を発信できる機会があると良い。（50代・男性）
県外にいるとこおりやま広域圏の情報は全く聞こえて来ません。県外へのアピールをもっと行う必要があると考えます。（50代・男性）
■ 子育て支援・人口減少対策について
子育てしやすい街になると、若い人たちが集まり、街が活性化すると思います。（50代・女性）
必要なことは沢山あるが、まずは子育て環境や若い人の定住する地域、魅力であることが一番ではないかと思う。（40代・女性）
高齢化は郡山だけでなく周りの市町村も交えて協力できる事を話し合うべきだと思う。（50代・女性）
少子化や若者が都会に出てしまうなど問題はありますが、市民一人一人が意識することも大切だと思います。（50代・女性）
■ 公共交通機関について
東北本線沿線に富田駅のような駅があれば、駅前活性化につながり車社会が緩和されると思う。（60代・女性）
高齢者や高校生には、どうしても鉄道やバスは必要だと思います。（40代・女性）
広域圏の中では郡山が核となり、市民にも各地の魅力の周知のため、周遊バスを走らせてほしい。（30代・女性）
電車の本数が少なすぎると思います。高校生の息子は定期を買っても時間が合わず結局車で送迎です。（40代・女性）
■ 魅力向上に向けた取組について
郡山市は新幹線でアクセスも良く、猪苗代町周辺の観光資源を活かした拠点的施策がよりあればと思います。（40代・男性）
まず郡山市が「全国に先駆けて」というチャレンジの街にしていきたい。（40代・男性）
こおりやま広域圏も含め、福島県がもっと魅力ある県になればいいなと思います。（40代・女性）
郡山駅周辺の賑わいがもう少しあると良いのかな、と思います。（30代・女性）